

農作物病害虫発生現況情報（9月） りんご編

1 斑点落葉病

(1) 9月後半の巡回調査の「ふじ」での発生園地率は67.7%（平年73.2%）、発生程度中以上の園地率は19.4%（平年24.2%）で、ともに平年並だった（図1）。

2 褐斑病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は64.5%（平年46.8%）で平年よりやや高く、発生程度中以上の園地率は45.2%（平年14.8%）で、平年より高かった（図2）。

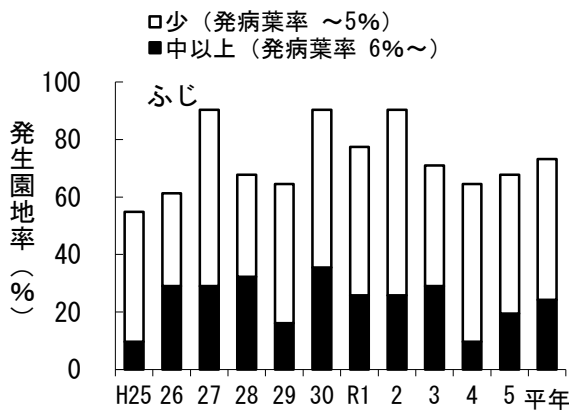


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移 (ふじ、9月後半、徒長枝全葉)

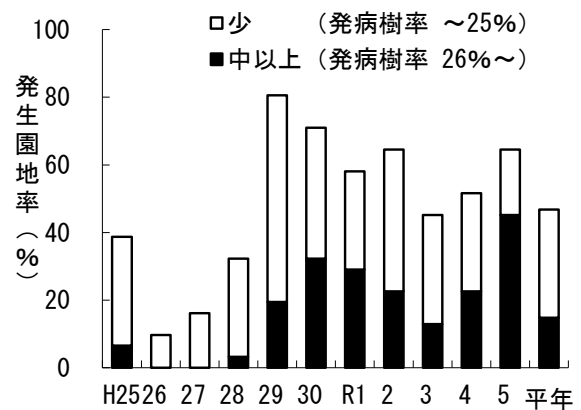


図2 褐斑病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

3 黒星病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、徒長枝葉は19.4%（平年9.0%）で平年よりやや高く、果実は16.1%（平年6.1%）で、平年より高かった（図3）。

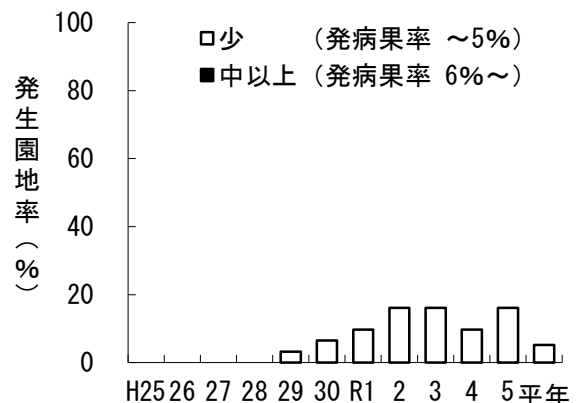
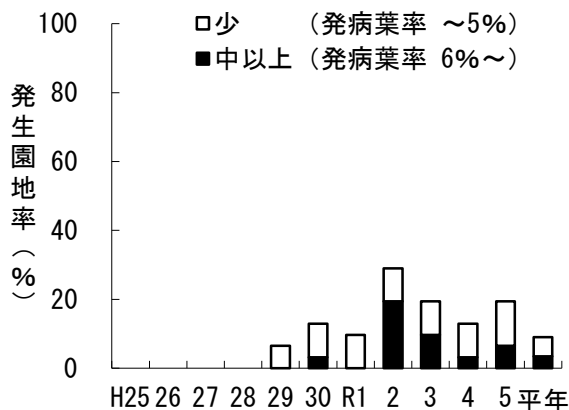


図3 黒星病の発生園地率の年次推移 (9月後半、左：徒長枝葉、右：果実)

4 果実病害

- (1) 輪紋病の9月後半の巡回調査での発生園地率は45.2% (平年10.7%) で、平年より高かった (図4)。
- (2) 炭疽病の9月後半の巡回調査での発生園地率は19.4% (平年7.4%) で、平年より高かった (図5)。
- (3) すず点病の9月後半の巡回調査での発生園地率は12.9% (平年4.5%) で、平年よりやや高かった (図6)。
- (4) すず斑病の9月後半の巡回調査での発生園地率は3.2% (平年0.3%) で、平年より高かった (図7)。
- (5) 黒点病の9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった (平年7.4%、図8)。

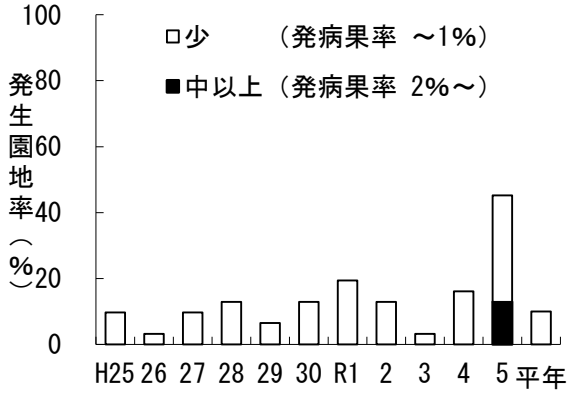


図4 輪紋病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

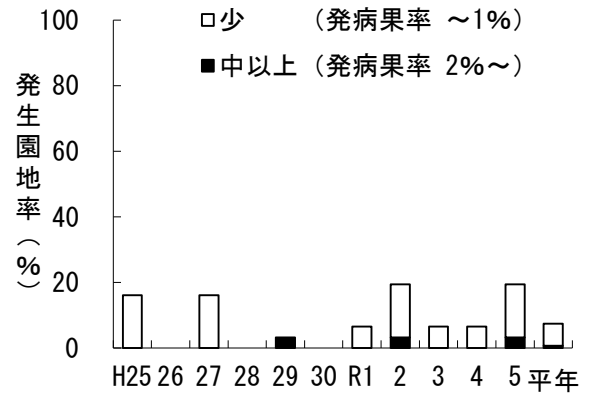


図5 炭疽病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

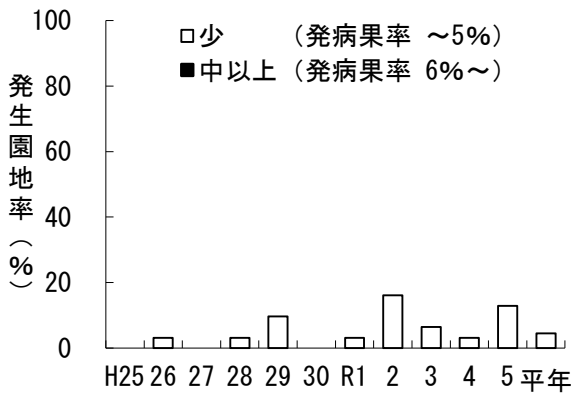


図6 すず点病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

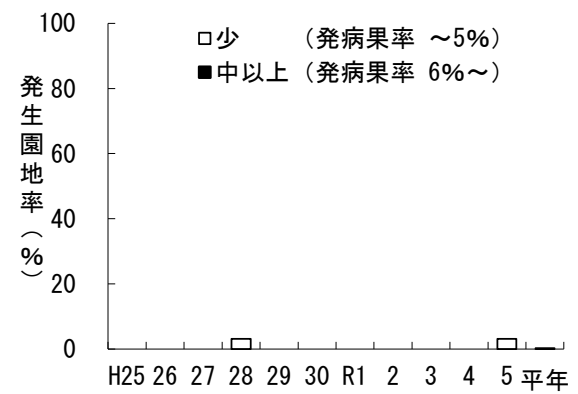


図7 すず斑病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

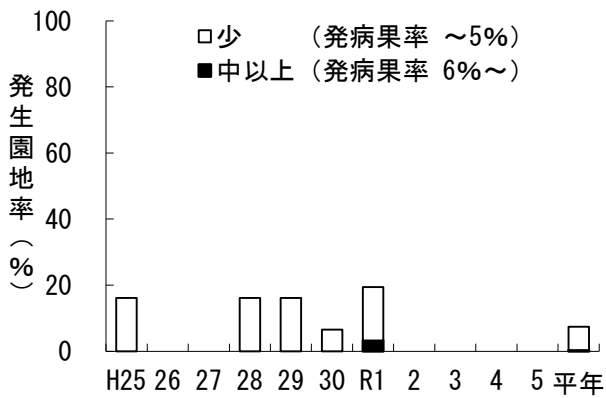


図8 黒点病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

5 ハダニ類

(1) 9月後半の巡回調査でのリンゴハダニの発生園地率は3.2% (平年6.1%) で平年よりやや低く、ナミハダニは発生が確認されなかった (平年17.4%、図9)。

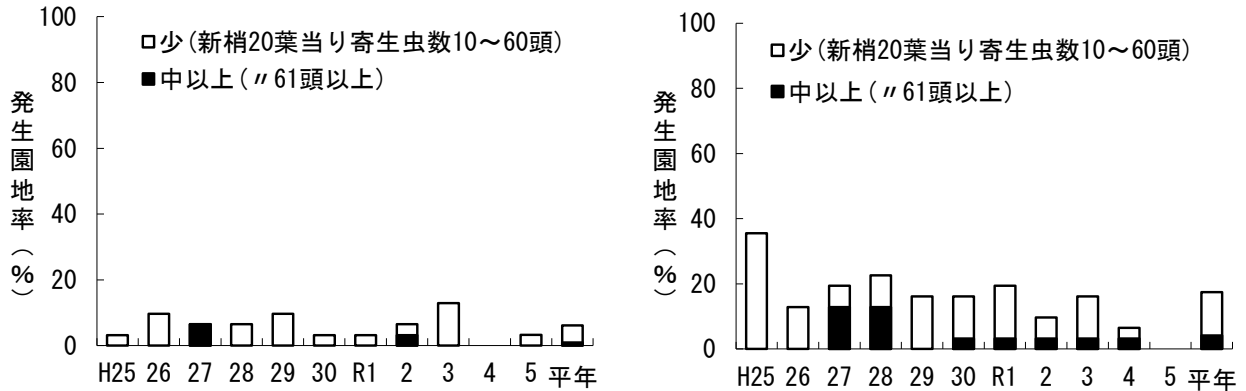


図9 ハダニ類の発生園地率の年次推移 (9月後半、左：リンゴハダニ、右：ナミハダニ)
(10 頭未満/新梢20葉 (10 樹) は発生無しの扱い)

6 ギンモンハモグリガ

(1) 9月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった (平年11.3%、図10)。

7 シンクイムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は19.4% (平年6.4%) で、平年より高かった (図11)。

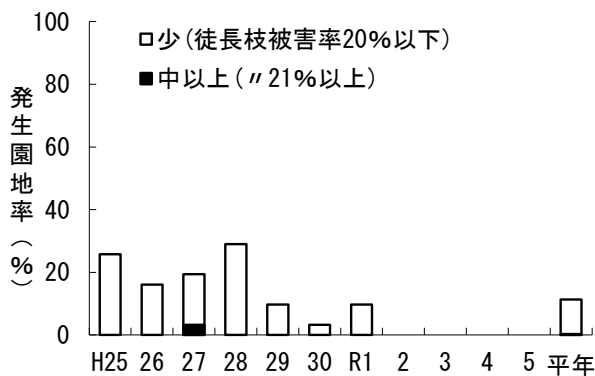


図10 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (9月後半)

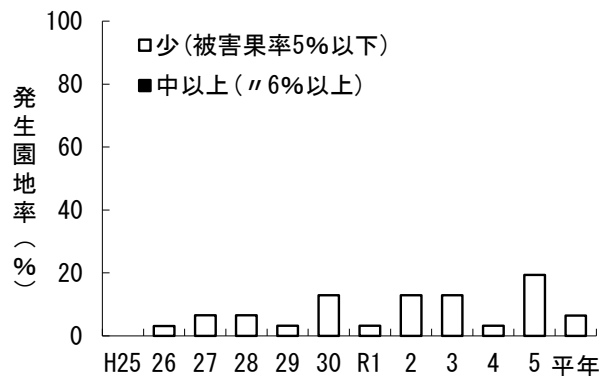


図11 シンクイムシ類による被害果発生園地率の年次推移 (9月後半)

8 果樹カメムシ類

- (1) 9月後半の巡回調査での被害果の発生園地率は54.8% (平年16.1%) で、平年より高かった (図12)。
- (2) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場 (北上市成田: 無防除) では、8月以降、平年並に推移した。現地圃地 (盛岡市川目) の誘殺数は、7月第3半旬以降、平年より多く推移した (図13)。
- (3) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は、北上市成田では、9月以降、誘殺されなかった。盛岡市川目では、9月第3半旬に平年より多く誘殺された (図14)。

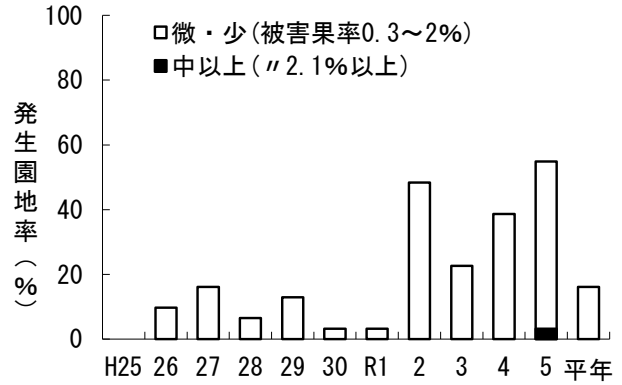


図12 果樹カメムシ類による被害果発生園地率の年次推移 (9月後半)

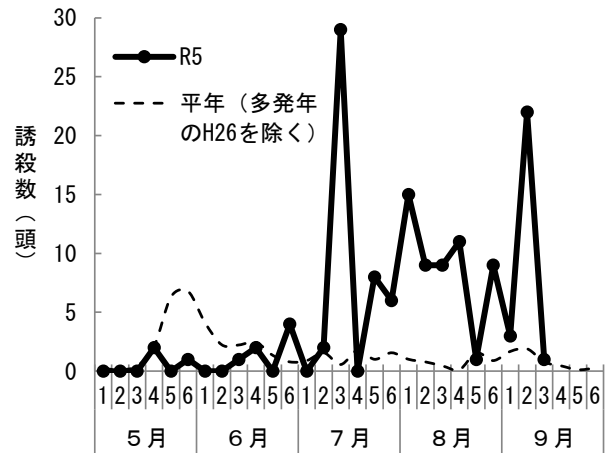
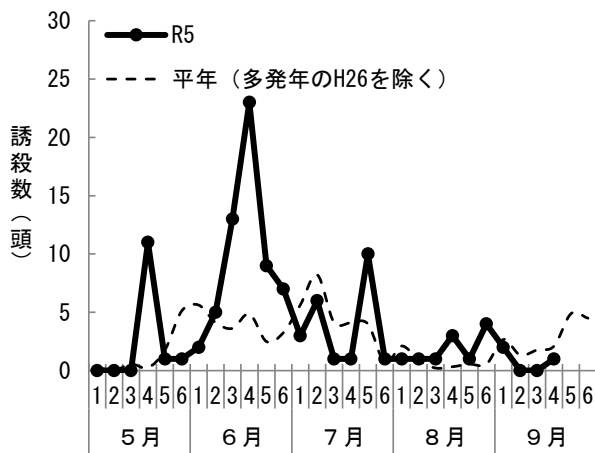


図13 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況 (左: 基準圃場 (北上市成田)、右: 盛岡市川目)

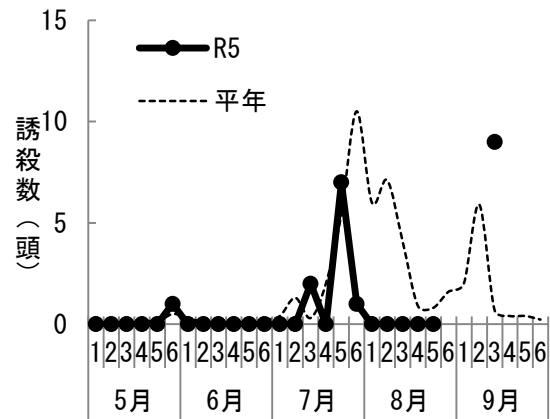
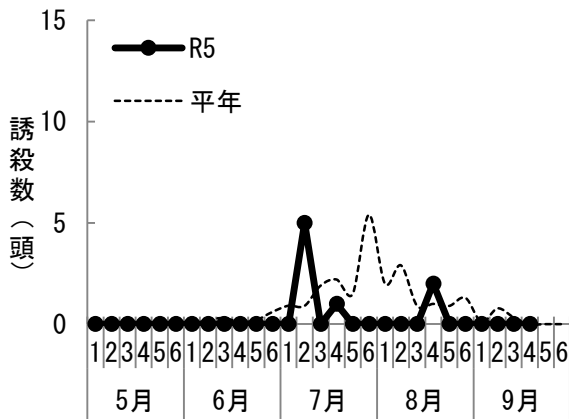


図14 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左: 北上市成田、右: 盛岡市川目)
※盛岡市川目: 8月第6半旬から9月第2半旬までデータ欠損